

## 5. 将来像と基本方針

### 5-1. 将来像

深谷市水道事業の現況分析と評価を踏まえ、目指す将来像を「安全で安心な水道水の安定的な供給」と定めます。

#### 安全で安心な水道水の安定的な供給

水道は、市民の生活や産業活動を直接支える都市基盤のひとつであり、利用者の信頼に応え安全で安心な水を将来にわたり安定的に供給することが重要です。そこで、「安全で安心な水道水の安定的な供給」を将来像として掲げるものです。

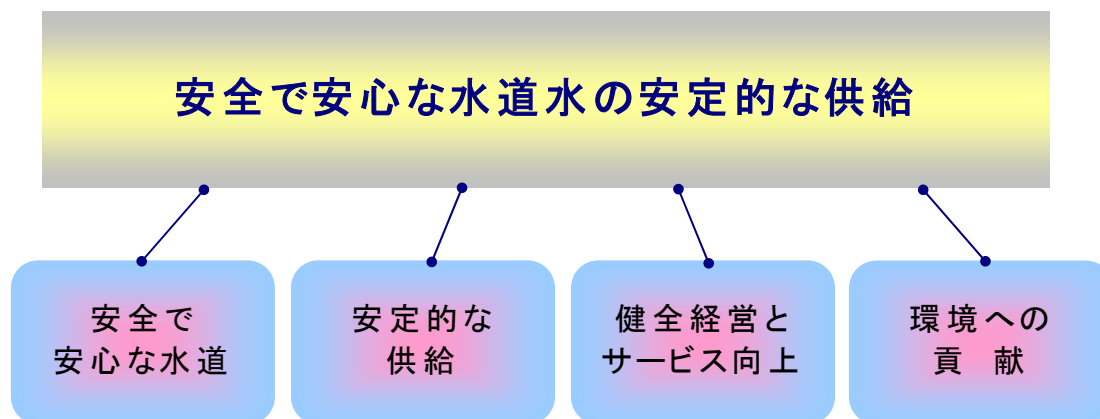
深谷市水道事業は、昭和4（1929）年に給水を開始して以来、お客様に安心して使用していただける水の供給に努めてきました。水道事業経営を取り巻く環境は、人口の減少により料金収入の減少が見込まれる一方で、建設から年月を経た膨大な施設や設備の更新や災害対策やリスク対応の高度化のための費用を確保しなければならず、非常に厳しいものとなっています。

今後も、これまでの蓄積を活かし、将来にわたって持続可能な水道事業運営を継続していきます。

## 5-2. 基本方針

---

目指す将来像として定めた「安全で安心な水道水の安定的な供給」を踏まえ、地域水道ビジョンで具現化する4つの基本方針を下記のように定めます。



### 安全で安心な水道

施設整備や水質管理の充実により、安全な水の供給を行います。

### 安定的な給水

水源の確保、老朽化施設の更新など、水道施設の再構築を通じて、災害対策を強化するなどのレベルアップを図り、安定的な水の供給を行います。

### 健全経営とサービス向上

効率的な維持管理のための設備の整備を行い、収入と費用の見直しにより運営基盤の強化を図り、給水サービスの向上に努めます。

### 環境への貢献

環境への負荷を低減化し、省エネルギー・省資源型の水道を目指します。

### 5-3. 事業の方向性

4つの基本方針より、具体的な事業への展開を図るにあたり、事業の方向性を定めます。

事業経営の面で、最も影響が大きいのは老朽化施設の更新です。

老朽管路の更新は、お客様が使用する場所に合わせて、管路が網の目のように整備されているので、老朽化した部分の更新を毎年の計画どおりに着々と進めることになります。

一方、浄配水場は、長期的な需要動向も見据えて、施設の統廃合や規模の適正化を図る必要があります。特に、維持管理の拠点施設である幡羅町浄水場は、供用開始からすでに約40年経過しており、設備全般の老朽化が顕著となり、コンクリート構造物(混和池や配水池など)は耐震性に問題があるため、大規模な更新が必要です。

また、皿沼浄水場は、供用開始からすでに30年以上経過し設備全般の老朽化が顕著となり、コンクリート構造物(混和池や配水池など)は耐震性に問題があるため、大規模な更新が必要です。前川原浄水場も供用開始後すでに20年以上経過し、設備の老朽化が進んでおります。

以上のようなことから、幡羅町浄水場は、現在の場所での更新事業を行わず廃止とし、岡部浄水場を拡張し整備が完了しました。

なお、幡羅町浄水場跡地については、平成29(2017)年3月に、不用資産の有効活用及び地域経済の活性化を目的として公募型プロポーザル方式入札で売却済みとなっております。

皿沼浄水場については、今後の各浄水施設の統廃合を見据え、効率性や合理性の観点から現在の場所での更新を実施することとし、花園第一配水場・第二配水場については、花園IC拠点整備プロジェクトへの対応や当該地域の安定した給水を実施するため、施設の改修を進めることとしました。

幡羅町浄水場の岡部浄水場への統廃合が完了し、今後は皿沼浄水場の更新及び花園第一・第二配水場の改修を進め、前川原浄水場・前小屋浄水場の皿沼浄水場への統廃合を検討していきます。

#### 《 事業の方向性 》

**幡羅町浄水場は、岡部浄水場への統廃合が完了**

**花園第一・第二配水場の改修を進める**

**前川原・前小屋浄水場は、皿沼浄水場への統廃合を検討**